

CSR Report 2009

Corporate Social Responsibility Report

鴻池組 CSR報告書





大地には本来、 命を育む力があります

人が経済発展の代償として汚してしまった大地
そんな大地を自然な状態に戻す技術を
鴻池組は日々磨いています

和歌山県橋本市の産廃処理場跡地に残された、
高濃度のダイオキシン類に汚染された土壌。
鴻池組が提案した「ジオメルト工法」が採用され、
日本初となるダイオキシン類汚染土壌の
現地無害化処理を実施しました。
処理完了から5年、かつて汚染されていた土地は
新しい命を育んでいます。

編集方針

鴻池組がCSRの推進を宣言してから2年の月日が経過しました。それでもなお、「CSRって難しい用語が多くてとっつきにくい」、「CSRといっても具体的に何をしようか分からない」という社内外の声をよく耳にします。

CSRを具体的にイメージするのが難しいのは、「あなたは普段他の人から信頼されるために、あるいは周囲とうまくやっっていくために、どんなことをしていますか?」と聞かれ、それに答えることに似ているからだと思います。

今回の報告書は、鴻池組が、社会の信頼に応えるためには「こう変わるべき」と信じて取り組んだ活動の紹介を、報告書としての網羅性よりも重視した構成としました。

また、CSR特有の用語は、なるべく分かりやすい他の表現に置き換え、置き換えが困難なものについては用語解説をつけました。

幅広くさまざまなお立場の方に、鴻池組が社会とどのような関わりを結ぼうとしているのかをご覧願ひ、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと考えています。

対象範囲

対象期間：2008年度（2007年10月～2008年度9月）
ただし、当該期間以前の取り組みや以降の活動報告も一部掲載しています。

対象組織：株式会社鴻池組単体であり、関係会社は含んでいません。

参考にしたガイドライン

GRI (Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ レポーティング ガイドライン2006」
環境省
「環境報告ガイドライン2007年版」

発行時期

今回：2009年5月
次回：2010年3月発行予定

ホームページのご案内

鴻池組は適切な情報開示のためにホームページを開設し、事業活動や保有技術などに関するより詳細な情報を提供しています。また、本報告書ならびにCSR活動そのものに関するご意見につきましても、ホームページからお寄せいただくことができます。

<http://www.konoike.co.jp/>

Contents

大地には本来、命を育む力があります	01
トップコミットメント	03
マネジメント体制	
鴻池組が考える“私たちのCSR”	05
経営の透明性と健全性の確保に向けて	07
コーポレートガバナンス/内部統制	
CSRを果たせる企業であるために	09
情報マネジメント	11
安全衛生マネジメント	12
くらしを守る技術	
環境と人にやさしい街づくり	13
社会性報告	
お客様とともに	15
クローズアップ 中之島線建設工事(第1工区)	17
地域社会とともに	19
ビジネスパートナーとともに	21
従業員とともに	23
環境性報告	
人と自然が調和したゆたかな環境の創造	25
環境管理活動	26
建設廃棄物減量化への取り組み	27
地球温暖化防止対策/法令遵守	28
生態系保全への取り組み	29
環境へのさまざまな取り組み	30
皆さまの声にお応えします(アンケート結果)	31
会社概要	32

魅力あふれる 鴻池組を築く

2008年11月28日、代表取締役社長に蔦田守弘が就任しました。
新体制となった鴻池組の課題とCSRへの取り組みについて語ります。

代表取締役社長 **蔦田 守弘**



社 是

【誠実】時代の推移、社会の変化にかかわらず我々の行動の原点であり、人間関係の根幹である

【懇切】品質保証と顧客満足は「もの創り」の絶対条件である
プロ意識を持ち、きめ細かい配慮とシステムティックな対応が求められる

【敏速】企業にとって「速さは力」である
事業の企画・立案・計画・実行を素早くこなさなければならない

経営理念

- ・環境と共生し「もの創り」を通して社会に貢献する
- ・「品質保証」と「顧客満足」を提供し、さらなる相互信頼のもとに永続的な事業活動を実現する
- ・「夢と誇りを持てる会社」を創造する

お客様に評価される秀でた技術と品質

私が社長に就任したのは、リーマン・ショックに端を発した世界的な金融危機の真っ只中でした。我々建設業のみならず、全産業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、中長期的な視点に立った思い切った改革が必要となります。だからこそ、若い私に改革のバトンが託されたのだと思っています。

会社として新たな展開を目指すにあたり、私は「魅力ある企業づくり」というキーワードを掲げ、従業員へ最初に伝えました。

鴻池組の魅力は何かといいますが、一つは土壌浄化をはじめ、免震・制震化技術など、他社に秀でた技術がまず挙げられ

ます。また、品質についても多くのお客様から高い評価を受けています。最近の例では、大手デベロッパー様の戸数約900戸という大規模なマンション工事において、現場を視察に来られた監理ご担当の発注者の方が、建物の出来栄と良好な管理状況を高く評価され、同社の役員の方の見学会をその現場で開く運びとなったことなどを挙げる事ができます。

当社の従業員はまじめでこつこつと仕事に取り組み、非常に良い物をつくっています。今後は、そうした秀でた技術や品質に加え、アフターケアなどサービス面をさらに充実させることにより、「魅力ある企業づくり」を目指していきたいと考えています。

最も大切なことは、従業員一人ひとりが

CSRを意識して仕事に取り組むこと

社長就任に際し、これからの時代に備える心構えとして、私は会社を船に例えて従業員にこう説明しました。「船に帆を張ってさえいれば、風と潮が運んでくれた時代はもう二度とやってきません。馬力のある動力を備え、自在に小回りの効く舵を備えた船だけが、時代の波を乗り越えていけます。だからそういう船に変わらしましょう」という風にです。

この例えで続けるならば、CSRへの取り組みは通行手形といえますか、免許証のようなものといえるでしょう。もはやCSRへの取り組みを表明していない企業には船を運航させないというくらいの雰囲気、現在の社会にはあると思います。

当社のCSRに関する基本姿勢は、「コミュニケーションにより信頼を獲得する」というものですが、特に、工事中にご迷惑をかける近隣の皆さまへの配慮については、日々のコミュニケーションが重要です。「明日はこのような工事をします」という連絡はもちろん、工事現場周辺を全員で清掃したり、草刈りをするなど、地域社会に対して目に見える貢献も必要です。そのようにしてコミュニケーションを図ることで、工事が終わった時に「よくやってくれた」と認められます。それが我々にとっての一番の喜びであり、社会へ果たすべき役割の一つだと思っています。

CSRで最も大切なことは、人任せ、上司任せにすることなく、従業員一人ひとりがCSRを意識して仕事に取り組むことです。自分が担当する仕事で、お客様や社会に喜んでもらうにはどうすればよいか。それは、低騒音のための工法改善であったり、近隣の皆さまに対する説明であったり、工程の短縮であったりするでしょう。やるべきこと、やれることはたくさんあると思います。

環境や安心・安全に貢献できる技術をアピールする

地域社会に溶け込んで仕事を行うという建設会社の特質上、環境への配慮や環境負荷の低減などに対しては高い意識を持つ必要があります。鴻池組では環境マネジメントシステムの枠組みを中心に、全社を挙げて環境への取り組みを行っています。

それに加えて、従業員一人ひとりが環境にやさしい工事とは何か、自分に何ができるかを、常に考えておくことも大切です。例えば、CO₂低減に向けた取り組みとして、掘削した土の運搬距離を少なくするよう設計、計画するなど、いろいろなアイデアが出せます。環境にやさしい提案ができる知恵と技術力を、さらに磨いていかなければなりません。

また、鴻池組は土壌浄化技術などの「よりよい環境をつくる技術」にアドバンテージを有しています。耐震技術についてもさまざまな構法を持ち、お客様のご要望や条件にあわせた多様な提案ができます。

アメリカのグリーン・ニューディールもそうですが、国内においても景気刺激策として環境関連事業への投資が進むものと思われます。こうした動きにより、環境の維持・改善に要するコストについて社会の意識が高まってくれば、当社の技術を社会のために役立つ機会がさらに増えてくるのではないかと考えています。

こうした社会の安心・安全に貢献できる技術を持っていることを、より積極的にアピールしていきたいと思ったり、何より従業員が誇りに思ってもらいたいと考えています。

外の声に耳を傾け、内部を改革していく

本格的なCSR推進活動をスタートさせた前社長 玉井啓悦(現・特別顧問)から蔦田新社長へ向け、鴻池組のCSR活動で引き継いでほしいことや期待することについて、エールをもらいました。

玉井 私が社長に就任した2006年度から、CSR推進活動を本格的にスタートさせました。

当時、企業が一つの不祥事でその対応を誤ったために、会社存亡の危機を迎える事例が相次ぎました。何かあったら本当に大変なことになる。そうした危機感から始めたことですが、リスク管理の面において情報の伝達速度が格段に上がりましたし、そのため対処の決断も早くなった、というのが実感としてあります。

ですから、コンプライアンスやリスク管理といったいわば「守りのCSR」については、現在の方向の延長線上に考えてもらってよいのではないかなと思います。ただ、外部の声により社内でのやり方や仕組みを変えていくこと、いわば「攻めのCSR」というか、より戦略的なCSRという部分がさらに必要になってくると思います。

蔦田 おっしゃるとおり、当社にとって最優先で取り組むべき課題は「もっと外に目を向け、外の声に耳を傾け、内部を改革していくこと」だと思います。

「鴻池組さんは真面目にこつこつやる人が多い」という評価をいただくことが多く、素直にお褒めの言葉として受け止めていますが、反面、従業員の意識が「内に内に」向かいやすい傾向があると思います。

そのためには、玉井前社長が常々おっしゃっていた「顧客第一主義が原点」「スピードアップ」「内から外へ」を会社全体として追求していくことが大切です。

さらに、私が就任以来言っているのは「魅力ある企業」になろうということです。お客様、地域社会の人びと、協力会社の方々、そして従業員のいずれから見ても「魅力ある企業」になる。そのために自分に何ができるか、何をなすべきかを考えることが、CSRの一層の推進にもつながっていくのだと思います。



鴻池組が考える “私たちのCSR”

鴻池組のCSR*の柱「イノベーションの創造」に示す創造1・2・3は、

端的に言えば「技術・環境・人」です。

建設を通じて社会と関わる私たちにとって、

最も身近でイメージしやすい切り口として、この3つに注目しました。

「技術・環境・人」について、これまでの考え方や進め方を常に見直し、

革新（イノベーション）を怠らないことを、鴻池組は宣言しました。

鴻池組に関わるすべての人びとからの声に、私たちは真摯に耳を傾けます。

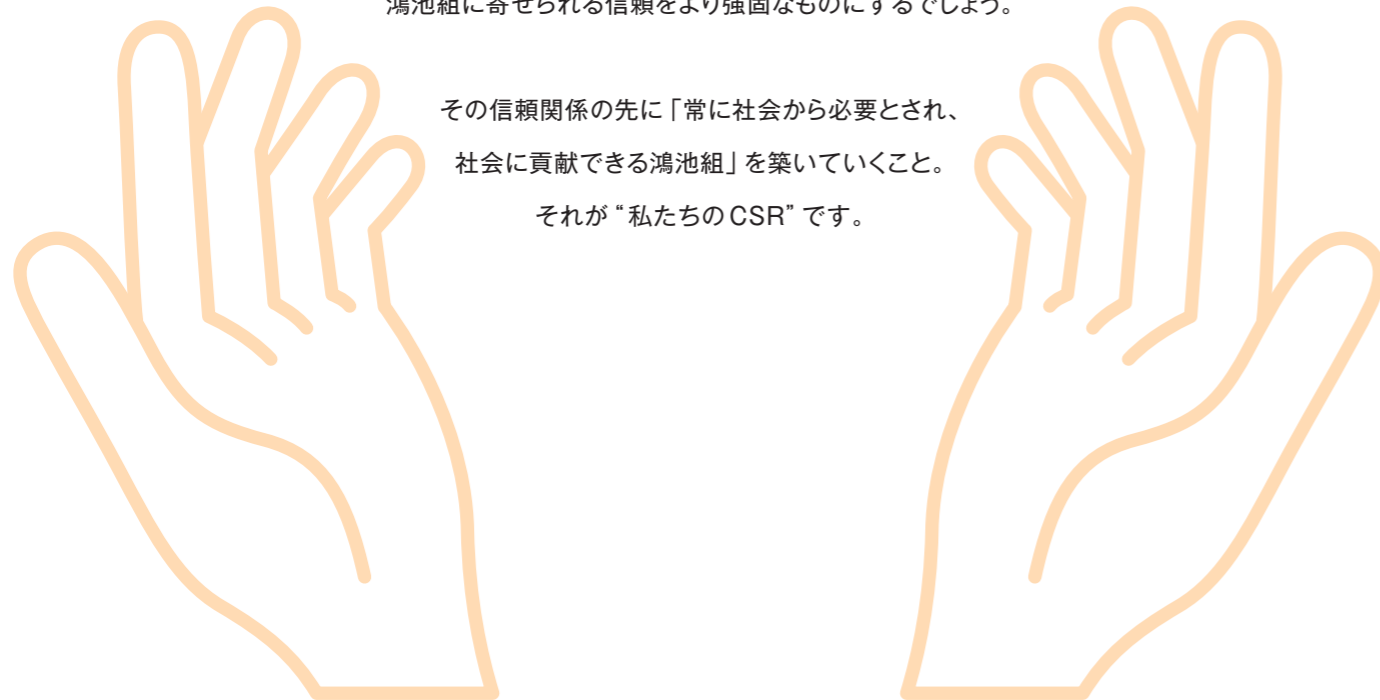
こうした取り組みから生まれる革新は、

鴻池組に寄せられる信頼をより強固なものにするでしょう。

その信頼関係の先に「常に社会から必要とされ、

社会に貢献できる鴻池組」を築いていくこと。

それが“私たちのCSR”です。



*CSR
Corporate Social Responsibilityの略。一般に「企業の社会的責任」と訳されます。
企業が事業活動を行うにあたり、その影響のおよぶ広い対象に対して責任ある行動をとることを求める考え方です。

CSRを果たせる企業であるために

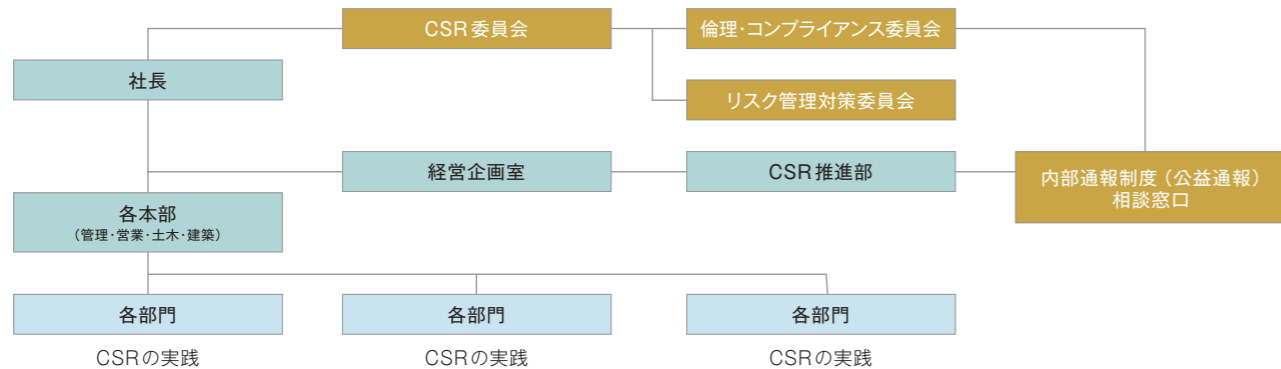
鴻池組のCSR推進体制は、社長を委員長とし、関連役員をメンバーとする「CSR委員会」を中心に構築しています。同委員会は、CSRの取り組みに関する施策などの意思決定機関として、CSR推進活動の定着と継続を図っています。

委員会と専任部署の設置

鴻池組では、「CSR委員会」の下部組織として「倫理・コンプライアンス委員会」、「リスク管理対策委員会」を設置し、CSR推進活動を総合的に実践する体制を整えています。また、CSR推進専任部署として経営企画室に「CSR推進部」

を設置し、CSR推進計画の策定、CSR推進体制の継続的改善、CSRに関するモニタリング、CSR関連委員会の運営、CSRに関する社内啓発活動など、専属者による部門横断の取り組みを企画、実行しています。

■CSR推進体制



CSRを担う次世代の育成

CSRについては社是や経営理念と同等に従業員への浸透を図るべきとの観点から、鴻池組では毎年新入社員に対してCSRに関する教育を行っています。入社時点からCSRの視点を持って仕事を覚えていく世代を拡大することが、会社全体へも大きな波及効果をもたらすものと考えています。



CSR推進部による新入社員向けCSR教育

新入社員の声

●CSRに関する教育を受けて感じたこと

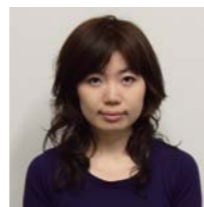
これからの企業はお客様の要望に応えるだけでなく、社会に対しても責任を負わなければならないということを学びました。特に建設業は就業人口も多く、社会基盤整備に直接関わることから、それ相応の責任や貢献が求められるということを認識させられました。

また、自分は、新入社員として新しい価値基準であるCSRを率先して業務に取り入れていくべき立場であることも感じました。いまだ決まった形のないCSRだからこそ、自分でも鴻池組はどのような取り組みをするべきか、業務に携わりながら可能性を模索することが大切だと思いました。

●自身の仕事とCSRについて

新入社員教育を終え、設計部門に配属されましたが、私は、設計者としてCSRへの取り組み方は無限にあると考えています。再生材を使用した内装を提案したり、空調負荷の少ない建物を計画したり、敷地内に十分な緑地を確保することや、公共性の高い建物ではユニバーサルデザインに配慮することもCSRにつながると思います。

コストや工程の制限がある中でお客様や近隣の方々や意識を共有するためには、建物の持つ性能を数値やランクで評価することもCSRに有効だと思います。まだまだ設計者としては未熟ですが、今後も自社の技術を活かしたCSRの実践に努めていきたいと思っています。



大阪本店建築設計部
計画グループ
巽 亮子 (2008年度入社)

リスクの低減に向けた取り組み

●潜在するリスクのピックアップ

事業活動に伴って発生するさまざまなリスクについては、そのリスクが顕在化する前に抽出し、その要因を除去することが理想的です。

制度を定め、潜在的なコンプライアンス・リスクの抽出に努めてきました。2008年度からは、新たにリスク・モニタリング制度の運用を開始し、潜在するリスク全般の早期把握と、その要因を除去する仕組みづくりに着手しています。

鴻池組では、かねて公益通報者保護法に準拠した内部通報

制度名	報告されるリスクの種類	報告媒体・手段	報告経路(概略)
内部通報 (公益通報)	コンプライアンス・リスク (不正・不法行為)	窓口への通報 (電話、メールなど)	外部 → 本支店 → 経営企画室 → 倫理・コンプライアンス委員会 → 社長 → CSR委員会 通報により制度の不備などが明らかになった場合は委員会で対策を検討
リスク・モニタリング	リスク全般	経営企画室が各本支店に対してヒアリングを実施	本支店 → 経営企画室 → リスク管理対策委員会 → 倫理・コンプライアンス委員会 → CSR委員会 コンプライアンス・リスクは倫理・コンプライアンス委員会へ処理を付託

●顕在化したリスクの情報集約と対応

一方、顕在化したリスクに対しては、迅速な判断と対応が求められます。そのため鴻池組では、顕在化したリスクの種類に応じて、CSR委員会もしくは社長を中心とする経営層へ情報を迅速に届け、瞬時的に確な対応がとれるように体制を整備し

ています。また、顕在化したリスクへの対応やその後の経過については、CSR委員会他の会議において定期的に報告され、事態が収束にいたるまで、目を離さない仕組みになっています。

制度名	報告されるリスクの種類	報告媒体・手段	報告経路(概略)
重要懸案事項報告	顕在化したリスクのうち、 ・製品・サービスに関するもの ・コンプライアンスに関するもの など早急な対応を要するもの	「重要懸案事項報告書」	本支店 → 経営企画室 → CSR委員会
災害発生報告	労働災害 第三者災害 環境災害 自然災害 火災など	「災害速報」ならびに「災害事故発生報告」	本支店 → 管理本部安全環境業務部 → 各本部長 → 社長
その他のリスクに関する報告	係争案件に関する情報 取引先の倒産情報など	所定様式による報告 もしくは社内メールなど	本支店 → 管理本部総務部 → 各本部長 → 社長

●顕在化したリスクの再発防止に向けて

顕在化したリスクに関する情報を集約し、リスクごとの重大性の評価や要因分析、あるいは必要な対応がとられたかどうかの検証を行っています。こうした評価や分析、検証結果を社内

の諸会議にフィードバックすることで、リスク管理に対する意識の向上と再発防止に努めています。

情報マネジメント

企業内部で扱われる情報を適切に扱うためのマネジメントが、企業の継続的發展に必要不可欠であると鴻池組では考えています。そのため、全社的観点から情報システムのあり方を検討・検証し、内部統制や情報セキュリティのさらなる強化を推進します。

システム検討委員会の設置

鴻池組ではより効率的な情報化推進のため、中期的・全社的展望に基づいたシステム計画を策定する「システム検討委員会」を新設することを定め、2009年度の活動開始に向けて準備を進めています。

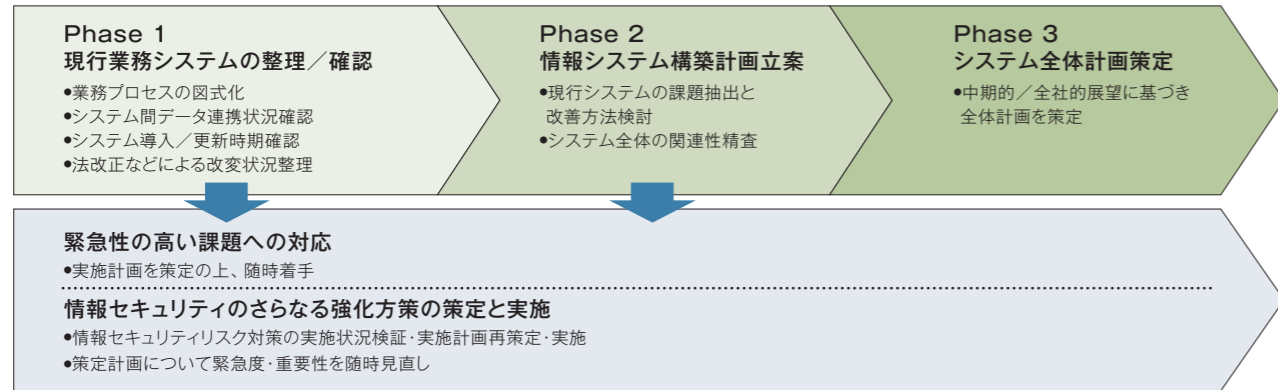
●活動方針と活動計画

- ①業務ならびにデータの可視化推進
- ②大胆な合理化の推進
- ③内部統制と情報セキュリティのさらなる強化
- ④情報システム構築・運用体制の再整備

情報システムの面から内部統制の強化を図るため、業務プロセスの明確化・標準化の促進を主眼に置き、できるだけカスタマイズを排したシステムの検討を行います。同時に業務上の問題点を的確に抽出し、迅速な改善が可能なシステムを目指すことで、業務の「見える化」を強力にバックアップする仕組みを整えます。

また、個人情報や企業情報の漏洩リスクを軽減する方策など、情報セキュリティに係るこれまでの施策について、実施状況を検証し新たなリスクの有無を確認した上で、継続的に対策を講じていきます。

■活動計画



ホームページへのご意見・お問い合わせ

鴻池組では、企業活動に関わるさまざまな情報を適時・適切に公開する場であると同時に、ご意見やお問い合わせをいただくための重要な窓口として、ホームページを位置づけています。

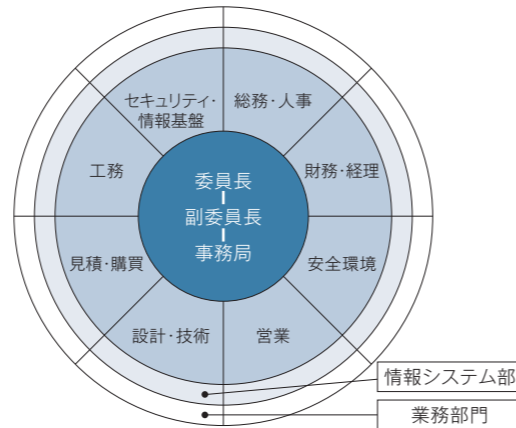
2008年度にいただいたご意見・お問い合わせは235件に上り、関連する社内の各部門と情報共有を行い、対応に努めました。

●委員会組織

社長の諮問機関の一つとして、経営企画室長を委員長とし、情報システム部と各業務部門の要員による委員会組織を構成します。また委員会下部組織としてワーキンググループを設置します。

システム全体計画の検討・策定を委員会で行い、各業務・テーマに応じてワーキンググループが現状調査・検証・検討を行います。

■委員会組織



安全衛生マネジメント

社長を議長とする中央安全衛生・環境会議で毎年設定される安全衛生・環境管理方針のもと、協力会社との連携を図り、安全で快適な職場づくりを推進しています。

安全衛生・環境管理方針

当社は、「人を守る」という理念のもと、「安全衛生および環境管理水準の向上」により、「労働災害」、「第三者災害を含む社会的災害」をなくすことを目的とした安全衛生・環境管理方針を以下の通り定める。

1. 死亡災害「0」、墜落災害「0」の達成
2. 第三者災害を含む社会的災害「0」
3. 元請管理の確実な実施
4. 協力会社の自主管理能力の向上
(作業手順とリスクアセスメントによる危険意識の向上)
5. 廃棄物の適正処理・汚染土壌の適正対応の完全実施
6. 安全・環境マネジメントシステムの推進
7. 法令遵守

2009年1月1日



安全衛生・環境管理方針ポスター

安全衛生教育の実施

工事事務所の全従業員、協力会社で組織される安全協力を対象とした安全管理計画の説明会を毎年実施しており、2008年は全店で約1,800社の協会員が参加しました。

また、職長・安全衛生責任者教育、労働安全衛生法に基づいた特別教育など、必要な資格の教育についても随時実施しています。



安全衛生管理計画説明会

災害事例のデータベース化

当社で発生した労働災害情報をデータベース化し、イントラネットで従業員が検索できるシステムを構築しています。

本年度より、第三者災害、クレーン倒壊などの事故についてもデータベース化を実施します。

このシステムでは、過去に発生した災害を工事の工種や職種、作業別に検索することが可能であり、同種災害・事故の再発防止やリスクアセスメントに活用しています。



労働災害情報検索システム

安全成績

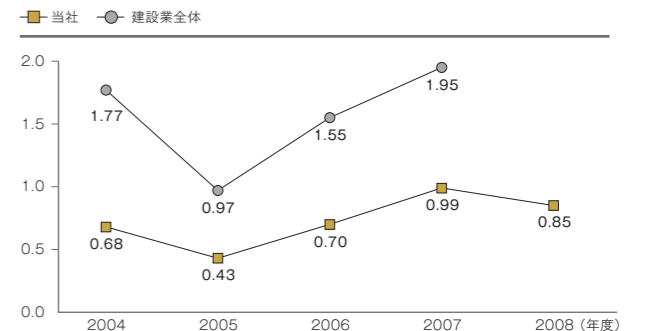
2008年度の災害件数は、2007年度より31%減少しましたが、死亡災害3件の発生がありました。

死亡災害発生に対しては、社内通牒文書などにより、現場再点検、安全指導の徹底を指示し再発防止に努めました。

安全目標数値は、度数率0.7に対して0.85と目標を達成することはできませんでした。

2008年度の災害分析および過去5年間のリスクアセスメントを実施し、2009年度の安全衛生管理方針を定めています。

■災害発生率(度数率)の推移



※度数率: 100万時間当りの労働災害による死者数 (注) 2008年度建設業度数率は未確定

環境と人にやさしい街づくり

人びとが安心して快適に暮らすためには、自然災害を軽減し豊かな住空間をつくるなどの建設活動が不可欠といえます。一方、過去の開発や産業活動により、土壌や河川が汚染され、負の遺産として顕在化しています。鴻池組は、これからの時代を担う子どもたちのために、地球環境に対する負の遺産を取り除き、新たな負の遺産を出さないことが必要だと考えています。また、地域の方々のくらしに与える影響を最小限に、それぞれの事業を進めていくことが重要と考えています。

鴻池組は、建設に携わる者の立場から、社会の安心、安全を求めて技術開発に取り組み、積極的な提案を行っています。ここでは、設計や施工計画時の環境アセスメント技術、施工時における環境配慮技術と環境対策として有効な酸化マグネシウムを用いた技術を紹介します。

環境アセスメント技術

騒音予測シミュレーション

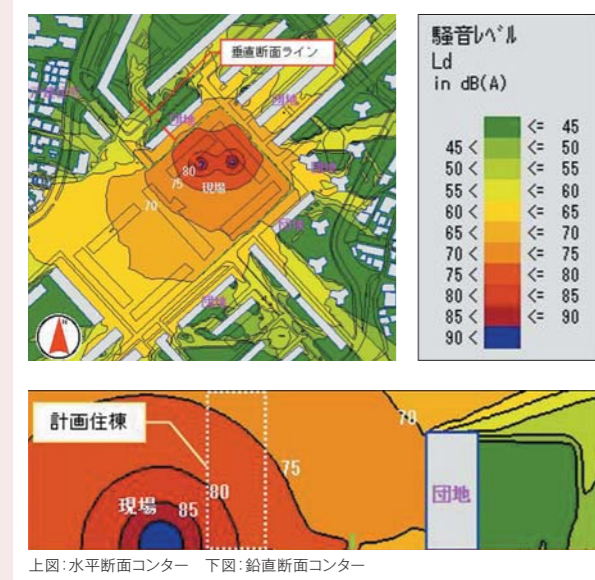
工場などの生産施設を設計する場合や各種建造物の施工計画を立案する場合、それぞれの生産活動や建設活動に伴い発生する騒音や振動による地域住民や環境への影響を予測・評価する必要があります。

騒音予測シミュレーションは、騒音の伝播状況を、コンピューターを用いて3次元的にシミュレーションを行うものです。予測結果は騒音コンター図としてビジュアルに表現され、騒音の周辺環境への影響が分かりやすく評価できます。



騒音源となる解体工事

■建設工事騒音レベル予測コンター出力の一例



上図：水平断面コンター 下図：鉛直断面コンター

建物周辺の風環境予測

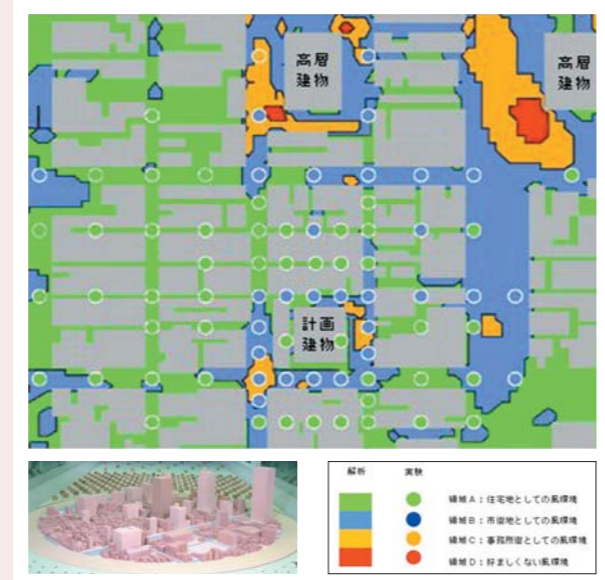
高層ビルなど大規模な建物を建設する場合、事前に敷地周辺へのビル風の影響を検討し、必要に応じて対策を立案し、その効果を検討する必要があります。

風環境予測技術は、市街地内での建物周りに生じる複雑な風の流れを予測・評価する技術で、これまでの風洞実験に代えて、コンピューターを用いてシミュレーションを行うものです。風環境予測の精度は、風洞実験とよく一致しており、実用上問題のないことが確認されています。予測結果は、風速コンター図、風速ベクトル図などのビジュアルで分かりやすく表現することができ、見えない風の影響を評価できます。



風の流れの3次元表現

■実在市街地モデルによる実験と解析の比較



■実在市街地モデルによる実験と解析の比較

施工時における環境配慮技術

産業廃棄物を低減するソイルセメント高流動化

ソイルセメントを使用する土留め壁や杭などの施工に際し2種類の流動化剤を添加します。これにより、少ないセメントミルク注入量でありながら、ソイルセメントの高い流動性と必要な強度発現を可能とします。

- 環境負荷(産業廃棄物)を大幅に低減できます。
- 高流動性により、施工サイクルタイムが短縮し、鋼材建て込み精度が向上します。
- 高密度かつ均質で高品質(強度・止水性が高い)になります。
- 材料費や産廃処分費などの工事費を低減できます。



高流動化ソイルセメント

通水ボックス工法

掘削による周辺地盤や建物への影響を防止するための土留め壁は地下水流を遮断するため、土留め壁の上・下流で水位上昇や低下を招く原因となります。通水ボックス工法は、土留め壁に使用する鋼製の芯材を利用した地下水流を保全する技術です。

- 土留め壁背面に集水井・涵養井が不要なため、工期短縮と工事費の低減ができます。
- 透水フィルター板の取り外しが可能なため、目詰まりなどに対するメンテナンスが容易です。
- 地下水低下工法用の井戸として利用できます。



建て込み状況

通水ボックス断面

酸化マグネシウムを用いた環境対策技術

固化・不溶化処理技術

過去の経済活動により汚染された都市部の地盤や、自然的原因で有機物質を含む地盤の掘削により顕在化する、重金属などに汚染された土壌をマグネシウム系固化材[※]を用いて固化・不溶化処理する工法です。

- 六価クロムなどの重金属を含まず、低いアルカリ領域で汚染土壌を固化できます。
- 不溶化が難しいフッ素、シアン、六価クロム汚染土壌や、鉛を含む複合汚染土壌を不溶化できます。
- 不溶化処理効果の長期安定性に優れています。



酸化マグネシウム系固化材



固化・不溶化処理状況

※マグネシウム系固化材 従来のセメントなどの固化材に代わる、酸化マグネシウムを主成分とする新しい固化材です。

脱水・固化処理

河川や湖沼などの浚渫工事で発生する濃縮処理された脱水前の浚渫土などに、マグネシウム系固化材を事前添加・混合します。これにより、脱水処理と固化処理が効率的に行える、浚渫土を積極的に有効活用する技術です。

- 本材の添加により脱水時間が短縮されます。
- 浚渫土と固化材の均一な混合が可能となり、脱水ケーキの品質にばらつきがほとんど生じません。
- 浚渫土に重金属などの有害物質が含まれている場合、汚染物質の不溶化処理を同時に行えます。
- 高強度化された脱水ケーキは、道路用盛土、河川堤防、土地造成などに利用できます。



盛土への活用(現場実証試験)



固化材スラリーの前添加状況

お客様とともに

鴻池組はソリューション（お客様の問題解決）を常に考え、お客様にとってのオンリーワン技術やサービスを提供し、総合技術力による品質保証で、お客様の真の満足を追求していきます。

総合力によるソリューション事例

2007年中頃、ユニー様が土地購入を決定された御嵩町のショッピングセンター計画について、同年末、数社による競争を経て、本体商業施設の建設を当社にご下命いただくことになりました。当該用地の開発には既設工場の解体から、土壌改良、開発工事における関係諸官庁との協議など懸案が山積みでした。

商業施設の着手に先立ってこれらの対策を短期間で行う必要があり、鴻池組は解体から、土壌改良、施設の建設と、一連の業務を全社的に手がけ、お客様のご要望にお応えすることができました。当時を振り返って、ユニーの棹本建設部長様にお話をうかがいました。

お客様からの評価 土壌汚染対策と 細かな配慮で上質な店舗に

まちづくり3法の改正などにより、ユニーにおいても計画物件の着工を急ぐ必要がある中、鉄骨をはじめ建築資材全般の高騰、さらには名古屋エリアの建設ラッシュなどにより、建設費が大幅にアップしている状況で、請負業者の選定に苦慮しておりました。

そのような中で種々検討の結果、鴻池組さんを選ばせていただき、当社のコンセプトとする「地域の発展」、「お客様に喜ばれるショッピングセンター」の店づくりが御社の総合技術力により予定工期内に無事完成することができました。

御嵩町の計画地は、旧セラミック工場を現状のまま、環境対策も積み残しの状態で購入することになりました。工場内には大量のアスベストが残置され、工場建屋も屋根、壁に石綿系スレートが使用され、さらには外部に大量のタイルなど残材があるという状態でした。中でも土壌汚染について詳しく調査した結果、鉛とホウ素が検出され、ホウ素については環境基準を大きく上回る結果が出ました。



(写真右側より)ユニー株式会社 開発本部建設部長 棹本 浩行様
シニアマネージャー 西岡 芳彦様

そこで岐阜県ならびに御嵩町と相談などを繰り返し、信頼の置ける技術力のある鴻池組さんに解体から土壌汚染対策、建築工事まで一括でお願いすることにしました。より詳しい調査とその対策、地域住民への説明など、経験豊富な土木技術部のスタッフの方を派遣していただき、解体工事から土壌対策工事まで無事進めることができ、いよいよショッピングセンターの建築工事を着手することになりました。

工事にあたっては、工事部長・所長以

下各メンバーの方々为我々の立場に立ったアイデアを出していただき、ローコストでありながら上質なショッピングセンターを完成することができました。この店舗が今後のユニーのモデル店となるよう私たちも努力してまいります。

この経験を鴻池組さんもぜひ活かしていただき、今後とも当社ユニーの店づくりにご協力をお願いします。

(ユニー株式会社 開発本部建設部長 棹本 浩行様)



工事担当者からのコメント

この工事をご下命していただき、最初に手がけたのが解体工事でした。セラミック工場跡地でしたので土壌調査をしたところ、鉛・ホウ素が検出され、特にホウ素については環境基準を大きく上回るものでした。当社の土木技術部との打ち合わせにより、これに対する処置について岐阜県・御嵩町と打ち合わせを繰り返し行い、高濃度汚染土壌は掘削、除去し、低濃度汚染土壌は鉛直遮水壁を築造して封じ込めました。さらなる安心・安全のために遮水壁内側にディープウェル（地下水位を下げるための井戸）を設置し、汚染された地下水を揚水して浄化する対策を講じました。

遮蔽した部分については、竣工後もモニタリングを行い、引き渡し後もユニー様にて基準数値になるまで管理をしていただくことになりました。

建築工事については、非常に短工期の中で発注者および関係の皆さまにご協力いただき、何とか順調に進めることができました。また開発工事に関しては、国道21号、県道、市道、町道などの協議に時間を費やしましたが、工期を守り無事竣工することができました。

今後これらの経験を活かしてお客様のご要望に応えていきたいと思っております。



名古屋支店 工事部長 伊藤 幹雄

工事概要

工事名称：ラスバ御嵩店新築工事
工事場所：岐阜県可児郡御嵩町
発注：ユニー株式会社
設計・監理：株式会社鴻池組
工期：2007年10月～2008年10月
規模：鉄骨造 地上3階、塔屋2階
建築面積 / 17,490.29m²
延床面積 / 51,584.01m²



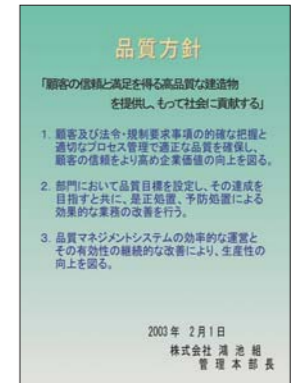
品質管理の徹底

計画打ち合わせ段階から竣工引き渡し後のアフターサービスまで、すべてのプロセスにおいて品質管理を徹底することこそ本来の「品質保証」であると考え、全国の本支店でISO9001を取得しています。

2009年度は、「新たな価値を創造する」という全社方針に基づき、過去の反省材料を今後の品質向上につなげるべく、是正・予防活動をはじめとする品質保証の手順を新たな目線で見直し、顧客第一主義という原点に立ち返り、品質の向上を目指します。



ISO9001登録証



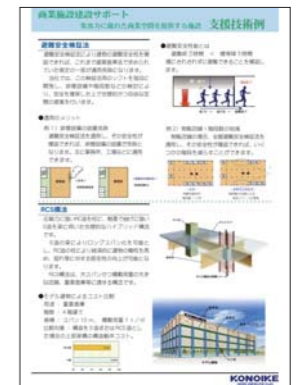
品質方針

土地購入や企画・設計段階からお客様とともに

「お客様が必要としている建物、空間、サービスは何か？」私たちは機能性・事業性や社会性など7つの基本理念をキーワードとしてお客様とともに考えます。施工段階だけでなく、土地購入や事業収支・企画からアフターサービスまで、長いお付き合いで信頼を築きたいと考えます。



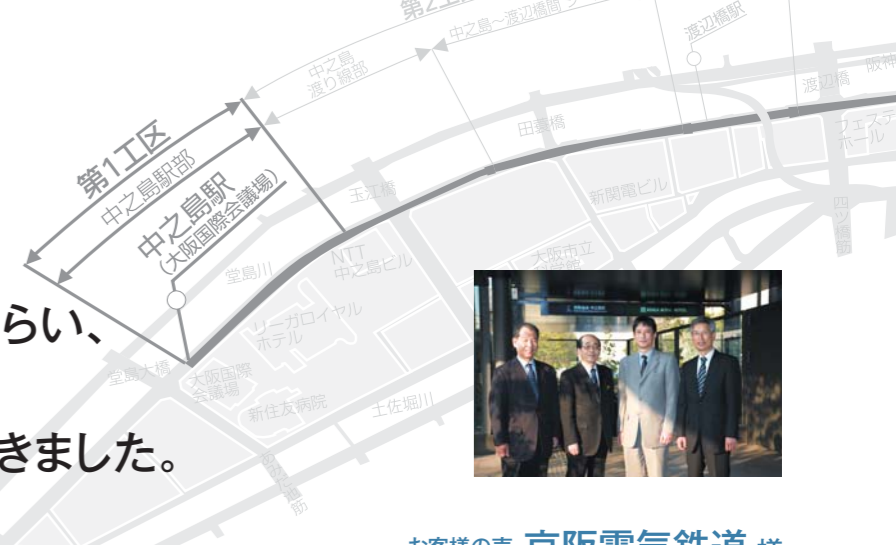
7つの基本理念



支援技術例



発注者側の趣旨を理解してもらい、
イメージアップにつながる
新しい工事スタイルを確立できました。



Interview

お客様の声・京阪電気鉄道様

イメージアップに向けた独自のアイデア

中之島は多くの歴史的資産を有する風光明媚なエリアです。中之島線は、その水都・大阪のシンボルでもある中之島の開発を推進させるという、大きな使命があります。その工事にあたっては、従来と同じように進めるのではなく、新しい工事スタイルを確立することで、事業全体のイメージアップを目指しました。

そのため「エコ・フレンドリーな古くて新しい中之島」を工事のコンセプトに、仮柵などによって人びとを遠ざけ、人びとの動きを寸断するといった、従来の工事スタイルから脱却し、環境保全をキーワードに「人と工事現場を遮るのではなく融合させる」「見る・見られる」新たな工事スタイルを追求しました。

そうした発注者側の趣旨をいちばんご理解いただいたのが、鴻池組を中心とした第1工区です。基本的な設計はこちらで行いましたが、鴻池組は重機のイルミネーションや植

栽にあふれた仮設の遊歩道、河川を利用した滝の演出など、さまざまな独自のアイデアで工夫し、実施していただきました。世界からお客様が来られるエリアでもありましたし、大きなイメージアップになったと思います。

作業員のマナーにも感心

中之島線の工事では、信頼性の高い土留めの新工法など、環境と安全に配慮した新しい工法を多数取り入れました。そうした技術的な対応はもちろんのこと、第1工区で非常に素晴らしいと思ったことは、作業員の皆さんのマナーが良かったことです。我々が現場に行った際にも、何の抵抗もなく皆さんが挨拶をされる。とても気持ちの良い現場でした。これは豊川所長をはじめとした現場の管理・指導が徹底されている結果だと感心しています。

そうした現場の協力で、中之島線開業によって新しい中之島が誕生することをイメージさせるような工事の進め方ができました。鴻池組には、今後もこのような先進的な取り

組みを続けていただきたいと思います。また、リーガロイヤルホテル様にはホテルの営業上、工事でご迷惑をお掛けすることが多々あったと思うのですが、ご理解をいただいて、工事を順調に進められたことにとっても感謝しています。



京阪電気鉄道株式会社
中之島新線建設部 課長
泉谷 透 様

水都・大阪のシンボル「中之島」で「第三者に見せる」新たな工事スタイルを追求。高い評価をいただきました。

クローズアップ
中之島線建設工事
(第1工区)

2008年10月19日に開業した京阪中之島線は、大阪の文化とビジネスの中心地である中之島に乗り入れる総延長約2.9kmの新線です。その建設工事にあたっては、環境保全をキーワードに「第三者に見せる」新たな工事スタイルが求められました。第1工区を施工した鴻池組（JV）は、その品質と環境対策、さまざまなイメージアップ対策の実施などで、高い評価をいただきました。

「水と緑と光」をテーマにした景観整備で工事のイメージアップに貢献

中之島線は、中之島高速鉄道様（京阪電気鉄道様と大阪府、大阪市などが出資する第三セクター）が建設・保有、京阪電気鉄道様が運行する総延長約2.9kmの新線です。大阪の東西都市軸の形成や中之島西部地区の再開発の促進、ひいては関西経済活性化の期待を担って、2003年春に着工しました。

鴻池組（JV）は、始点となる中之島駅部（延長334m）を開削工法で建設する第1工区の施工を担当しました。この工区は、さまざまな国際イベントが開催される大阪国際会議場と、国賓級のVIPも滞在されるリーガロイヤルホテルに隣接し、国内外から注目を集めるエリアです。

工事にあたっては、騒音・振動などの環境対策はもちろんのこと、中之島線建設の工事コンセプトに基づき「第三者に見せる現場づくり」を目指しました。植栽による占用柵や重機のライトアップ、河川を利用した滝など、「水と緑と光」をテーマにしたさまざまなイメージアップ対策を実施。中之島線事業を国内外にアピールしました。

そうした工事スタイルは、「今までにない工事現場」「心配りのある工事現場」として、中之島高速鉄道様、京阪電気鉄道様やリーガロイヤルホテル様などからも高い評価をいただきました。

従業員からのコメント

見られることは、現場のモチベーションアップにもつながりました。

リーガロイヤルホテル様をはじめとした近隣への心配りはもちろんのこと、「第三者に見せる現場づくり」という、これまでにない新しい取り組みが求められました。その期待に応えることは大きなプレッシャーでしたが、同時に大きなやりがいにもなりました。見られていることは、作業員のモチベーションアップになり、安全向上にもつながりました。



中之島新線第1工区
工事事務所長
豊川 享次



大阪本店 副本店長
中野 安浩

京阪電気鉄道様とは、長年にわたって信頼関係があり、高架工事や地下工事など多くの工事に参加させていただいています。今回は中之島線の中でも責任の大きな工区でしたが、無事終わることができました。今後も安心・安全をお客様に提供される鉄道事業の一翼を担うつもりで、一層の気配りをもって工事に取り組んでまいります。

Interview

お客様の声・リーガロイヤルホテル様

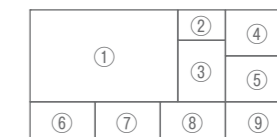
工事の気配りが行き届いていた

当ホテルには常に1,000人以上のお客様がご宿泊され、24時間稼働しております。工事期間中、騒音などに対する苦情が出たことは多少ありましたが、鴻池組様には常に適切にご対応していただき、大きなトラブルになることはございませんでした。

私が特に印象に残っておりますのが、超VIPがご滞在されたときの対応です。警備上、その期間は工事を中断いたしますが、事前に花壇などを整備していただき、きれいに演出していただきました。そうした気配りが、作業員の方々にも徹底されて、こちらの細かな依頼にも非常に気持ち良く協力していただきました。本当にありがとうございました。



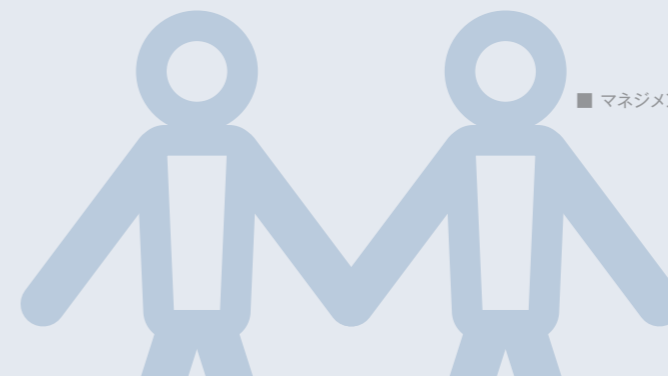
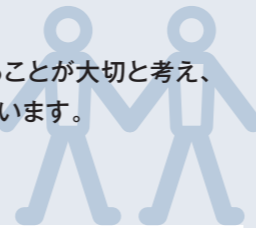
リーガロイヤルホテル
管理部長 次長
北野 好則 様



①中之島新線建設工事 ②風車のイルミネーション ③さくら柄の風管 ④緑の遊歩道 ⑤歩道のイルミネーション ⑥パーゴラ(休憩スペース) ⑦風力発電装置 ⑧西側からのイルミネーション ⑨計測室上緑化

地域社会とともに

鴻池組は「常に社会から必要とされ、社会に貢献する」ために、関わるすべての人びとから信頼を得ることが大切と考え、特に建設現場で直接関わりあう地域社会と融合し、「良き市民」として貢献していけるよう取り組んでいます。



工事現場での取り組み

● 現場見学会の開催

建設現場は地域社会の理解と協力なしには成り立ちません。鴻池組は積極的に地域社会へ情報発信を行うことによって、お互いに理解を深めることができると考えています。

情報発信の一つとして、鴻池組では現場見学会を積極的に開催しています。一般の方が普段あまり目にするできない現場を開放することで、鴻池組の仕事を理解していただくことを目的としています。

また若年層の建設業離れが叫ばれている現状に鑑み、その対策の一つとして、積極的に小学生～大学生向けの現場見学会を開催しています。プロフェッショナルとしての施工管理や最先端の建設技術に触れてもらうことを通じて、未来の建設産業を担う人材の育成に貢献できると考えています。

● 現場事務所と地域社会のコミュニケーション実践例

建設工事を行う上で、現場内の安全に配慮することは当然のことですが、建設資材の運搬などの面で地域社会の方々にもご協力をいただかなければならない場合があります。

そうしたコミュニケーションの一つとして、近隣小学校児童に対しての交通安全教育を実施した東九州道(蒲江～県境)浦之迫トンネル南新設工事の事例を紹介します。

この工事現場はトンネル掘削残土を運搬する際にダンプトラックを使用するため、小学校関係者と協議し学校教育の一環として交通安全教育を実施しました。交通安全教育は実際にダンプトラックを使用し、運転席からの視界(死角)確認や内輪差による巻き込まれ実験といった模擬体験形式で実施し、子どもたちの安全に対する意識向上に寄与することができました。



一般住民200名を招いて現場見学会(紀和ウォーク)。紀和高架駅部BL新設他工事(和歌山県和歌山市)



トンネル貫通の最終掘削の抗内見学会。四国横断自動車道 焼坂第二トンネル工事(高知県高岡郡)



運転席からの視界確認



内輪差による巻き込まれ実験



大阪建設業協会主催の「夏休み体験セミナー」現場見学会。兵庫中央病院病棟等建替整備工事(兵庫県三田市)



松江工業高校2年生35名を招いての現場見学会。Brillia琵琶湖大津京BEACH & RESIDENCE新築工事(滋賀県大津市)



交通安全教育を体験した児童からいただいた手紙



交通安全教育を受講した名護屋小学校の児童の皆さま



地元福岡南小学校生を招いての写生大会。福岡駅東整地工事(福岡県福岡市)



地元・財部北小学校生24名を招いての現場説明会。曾於北部(一期)農業水利事業大良導水路(2工区)建設工事(鹿児島県曾於市)

● 地域行事への参加

鴻池組では地域社会とのコミュニケーションの一つとして、地元開催の地域行事に参加することも有効なコミュニケーション手段であると考えています。

● 「全道人間流送競技大会」への参加

北海道むかわ町穂別地区主催の流送祭りで「全道人間流送競技大会」が開催され、鴻池組を含めた工事関係者混成チームで参加しました。流送競技とは馬跳びの馬になった人の背の上を船頭がバランスをとりながら走って、タイムを競う競技です(例年河川で実施されるが、今年度は増水のため陸上で開催)。



● 「小学校創立100周年記念焼酎計画」への参加

鹿児島県曾於市立財部北小学校創立100周年記念として焼酎づくりが計画され、原料となるサツマイモの収穫作業に参

加しました。当日は財部北小・中学校児童・生徒、地域住民を含め200名が参加する一大イベントとなりました。



● 中之島駅見学会への協力

2008年10月19日に開業した京阪中之島線。その駅の一つである中之島駅の見学会が中之島高速鉄道様ならびに京阪電気鉄道様により企画、開催されました。

事前に地元住民の方々などを対象として案内パンフレット16,000枚を配布し、当日は多くの見学者で賑わいました。鴻池組が施工した第一工区が会場となったこともあり、地域との結びつきを強めるべく、積極的に協力しました。



全社的な取り組み

● カレンダーチャリティバザー

いらなくなったものをすぐには廃棄せず、もう一度活用できるように考え、実行する。これは、未来の地球環境をより良いものにするために人びとが負うべき責任の一つです。

鴻池組は、2008年度より社内で不要となったその年のカレンダーおよび手帳を「カレンダー市」と呼ばれるチャリティバザーに無償で提供することとしました。

この催しは特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワークが毎年1月初旬に開催しており、2008年度で12回目を数えます。収益金は植林活動を行っている団体への寄付金として、また中越地震や中越沖地震などの被災地の他、今後国内外で災害が発生した際の支援活動費として使用されています。



提供した不要カレンダーの一部

● 2008年書きそんじハガキキャンペーン参加

住所を書き間違えたり、古くて使用できないなどの理由で投函されていない未使用ハガキで募金ができることをご存知でしょうか。

社団法人日本ユネスコ協会連盟では、未使用ハガキや未使用切手を募金として広く集め、寺子屋活動と呼ばれるさまざまな支援活動に役立てています。1枚50円の書きそんじハガキは45円の募金となり、貧困に苦しむ発展途上国の教育資金などに利用されます。

鴻池組は、運動主旨に賛同し、2007年度より未使用ハガキを大阪ユネスコ協会を通じ日本ユネスコ協会連盟に寄付しています。一人でも多くの人びとに等しく教育の機会が与えられることを期待しています。



投函用ボックス前に掲示した広報ポスター

ビジネスパートナーとともに

鴻池組はビジネスパートナーとのコミュニケーションをさらに深めることで、新たな関係を構築していきます。厳しい時期だからこそ、お互いが対等な立場で建設的な意見を出し合い、品質の向上により顧客満足と収益性を両立させることで、両者の持続的な発展を目指します。

生産性向上への取り組み

鴻池組と協力会社、相互の事業発展を目指して、協力会社により鴻友会が組織されており、鴻友会の代表と当社が話し合う場として協議会が設けられています。各支部協議会にて意見を

出し合い、本部協議会にて各支部の意見、要請などを協議することで、お互いの意志疎通を図り、事業の効果的かつ円滑な実施を目指しています。

● 鴻池組—鴻友会協議会 本部協議会

本部協議会要旨

昨今の建設受注や業界の構造変革の中で、当社と協力会社が勝ち抜いていくためには、現実即した新たな関係を構築していくことが重要である。現在は、お互いのコミュニケーション不足から発生する作業効率の悪化などが積み重なり、収益性を悪化させているといったことが見受けられる。そのような状況の中、現場の規模や環境の違いはあるが、「共に生き残る」「現場でお互い儲けよう」という共通認識のもと、無駄を省いて効率を上げる施策に取り組んでいくこととした。

取り組み施策

- 当社と協力会社との「着工前検討会」や「施工検討会」などを工事受注や安全で、品質の良い、無駄のない工事施工へ向けて実施すること。
- 上記会議の開催要件である工事規模、方法、時期、参加者などは各本支店において工事の重要度に応じて個別に判断、決定すること。

● 着工前検討会

鴻池組は生産性向上(=収益の向上)のために、着工前検討会という現場ごとの明確な施工方針(仮設計画、工程計画、品質計画)を協力会社と事前に打ち合わせる場を設けています。「代払い」、「手戻り」などの原因を事前に払拭することで、生産性の向上はもとより、原価、品質、工程、安全すべてにおいて改善を図ることを目的としています。



着工前検討会風景
(神戸大学(六甲台2) 総合研究棟
(生命・分子系) 新営工事事務所)

● 工事事務所長の声

● 意見がまとめでやすくなり余計な支出の抑制に

着工前検討会を行うようになり感じたことは、会議用の共通書式が作成されたことで現場としての意見がまとめでやすくなり、問題点のチェック漏れがなくなりました。現場でまとめた意見を協力会社の方にも事前に配布するので、会議までに考えや問題点をまとめることができ、会議では計画と実際の施工の擦り合わせを行うことで手戻りをなくし、お互いに余計な費用の支出を抑えることができています。現場の段取り次第で利益が大きく変動するので、これを平準化しようとするのは、一現場だけでなく会社全体にとっても非常に良い取り組みだと思えます。



神戸大学(六甲台2)
総合研究棟(生命・分子系)
新営工事 工事事務所長
石橋 秀利

● 協力会社の声

● 問題点を効率良く解決し、コスト削減、品質の向上へ

着工前検討会が発足するまでは、着工前に鴻池組の方と、その工事に関係する工種の協力会社が一同に集まって打ち合わせを行う場がなく、打ち合わせ不足が原因で発生する問題もありました。しかし着工前検討会を始めてからは、問題点の洗い出しとフィードバックがきちんと行われ、問題点が一つずつ解決されています。以前は、ある程度のロスや手戻りを想定した見積もりを提出していましたが、ロスや手戻りが減ることで、それを反映させた見積もり価格の提示ができ、品質の向上にもつながっています。



株式会社 三和建設
代表取締役
岸本 龍太郎 様

鴻池組が描く今後の関係構築

● 土木本部からのコメント

● 継続的關係について

ビジネスパートナー=協力会社との関係については、当社収益向上に向けて重要な構成要素であるばかりか、当社の社会的責任を考える上で、土木工事(不特定多数の第三者へ成果品を提供する)での品質の確保・法令遵守の根元となるものと考えられます。

協力会社との関係は、当社の事業継続性と現在の建設業を取り巻く経済環境、とりわけ受注環境の激化および収益性の低下を抜きに議論することはできません。そんな状況の中で、継続的な信頼関係のもとで目指すべき方向性を共有した関係構築が喫緊の課題となります。



土木本部 工務管理部長
石瀨 誠一

● 鴻友会会員会社との関係

こうした背景を踏まえれば、当社経営方針をよく認識し継続的な関係を有する、鴻友会会員会社との連携およびコミュニケーションの重要性がこれまで以上にクローズアップされることとなります。同時に非会員会社との連携を深めることが、今後の鴻友会の充実については当社企業力の向上に欠かせないものと思います。当社への要求事項を同一視線で捉え、同一の動機づけの中で要求に応じて顧客満足を得ることが必要となります。

● 土木部門としての取り組み

一つの試みとして、協力会社選定時に総合評価による選別方式の採用を行います。下記4項目を実施することにより、技術資料作成・評価の段階で当社および協力会社各社のスキルアップや、お互いの責任と役割分担の明確化と、情報の共有化による同一ベクトルでの業務遂行をより現実的に実践できることを目的とします。

- ① 価格+技術力+信頼度+実績にて評価 ② 業務遂行能力の見極め ③ 提出価格の内容を双方が認識 ④ 鴻友会会員会社のアドバンテージ

● 建築本部からのコメント

● 継続的關係について

鴻池組の社会的責任を考える上で、協力会社との関係は非常に重要です。当社が建設会社としてお客様の満足を獲得するには、お客様が使用される当社製品の品質確保ならびに製造過程での確実な法令遵守が必要であり、そのためには、「ものづくり」のパートナーである協力会社との協働が不可欠で、双方の継続的成長を可能とする関係構築を考える延長線上に当社の成長もあるものと思います。



建築本部 工務管理部長
深澤 卓司

● 鴻友会会員会社との関係

こうした継続的関係構築を前提とした組織である鴻友会を通じて、当社および協力会社の共存共栄を可能とするエコシステム[※]を構築していこうと考えています。ただ、これは非会員会社や新規参入の企業に対して門戸を閉ざしてしまうという意味ではもちろんありません。競争力というのは、やはり外からの刺激や新陳代謝があってこそ磨かれるものだと思います。

※エコシステム 複数企業の協調による収益構造

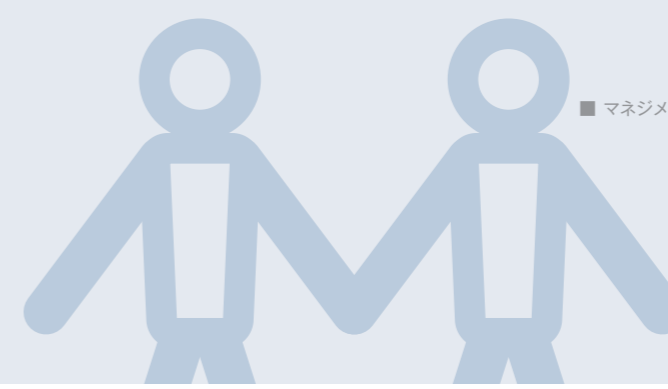
● 建築部門としての取り組み

鴻池組および協力会社の協働による「ものづくり」を行うにあたり、建築工事においては「無駄を省こう」という共通理念を持って取り組んでいます。

具体的には、「着工前検討会」などを開き、現場に潜在している無駄を顕在化させることで、双方が動きやすい環境の構築を目指しています。さらにこの活動は、良好な現場環境の構築により、お客様へ提供する製品の品質向上、産業廃棄物やCO₂の削減など、多方面に好影響を及ぼしています。

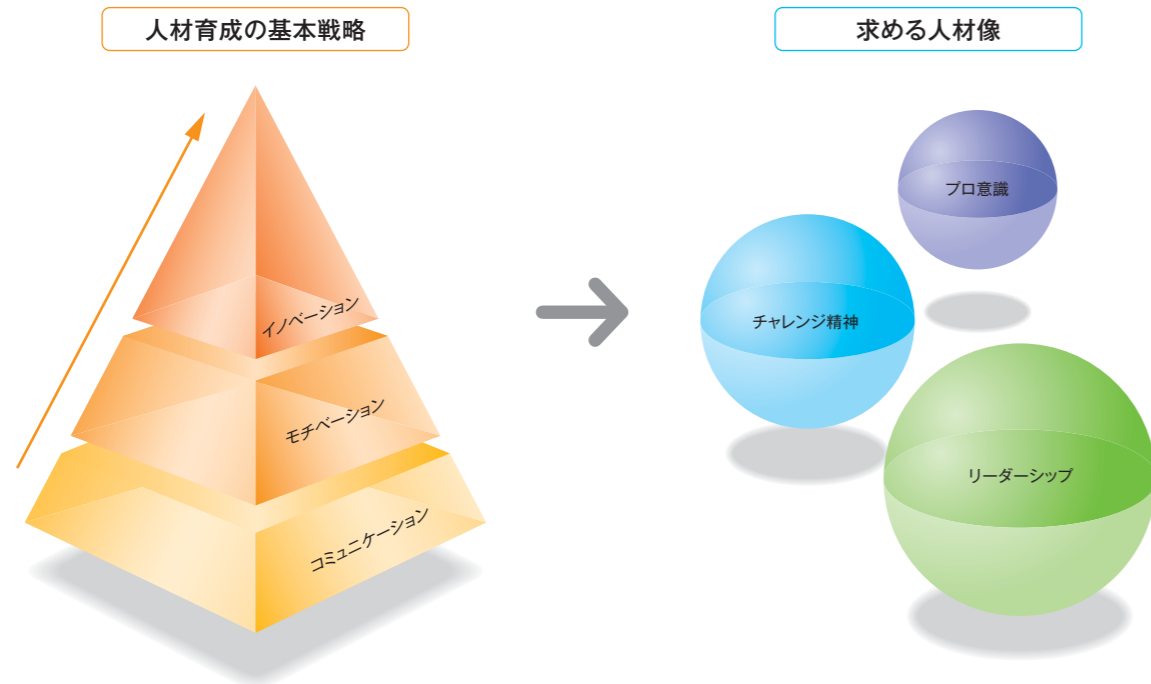
従業員とともに

建設業は「人」とその技術・技能が支える産業であり、
 鴻池組は従業員とのコミュニケーションをベースとして人材を育成していきます。
 また、経営層と従業員の意見交換会を開催するなどコミュニケーションの充実を図りながら、
 経営への参画意識を高めることで「全員参加型経営」を目指しています。



能力の向上と人材育成

社員の成長こそが会社発展の原動力といえます。鴻池組は「求める人材像」を明確に定義するとともに、こうした人材を育むことのできる風土作りに向けて、「人材育成の基本戦略」を定め、社員の成長を全力でバックアップすることで、経営に積極的に寄与しうる有能な人材を育成していきます。



【コミュニケーション】

社内外を問わず、周囲とのコミュニケーションがとれなければ信頼を得ることはできません。協働によるシナジー効果を最大限に活かすためには、コミュニケーション能力をアップさせることが最も重要です。

【モチベーション】

能力・スキルがあっても前向きな気持ちがなければ会社にとって役立つ人材にはなりません。知的感性を刺激し、人を「その気にさせ、その気を継続させること」が重要です。

【イノベーション】

企業が永続的に発展を遂げていくためには、確かな技術力と新たなビジネスモデルを創造し続けることが要求されます。個人のポテンシャルを高めること(自己変革)により、イノベーションを創造し、企業ブランド力を高めます。

【プロ意識】

高品質(技術)を提供するプロ集団の一員として、常にプロである自覚を持って仕事のできる人材を求めます。プロ意識育成プランを通して、高度な専門知識・技術・能力の向上とマネジメントスキルを身につけることで、プロ人材を育成します。

【チャレンジ精神】

日々進歩していく社会に対応するためには、高い志を持ち成長していくことが重要です。現状に満足せず、より高い目標を決め、どんな困難も克服し最後までやり遂げる、達成しようとする意欲・精神力がある人材を求めます。チャレンジ精神育成プランを通して、個人のレベルアップを支援します。

【リーダーシップ】

大きな成果をあげるためには、物事の本質を的確に捉え達成までのシナリオを描いて周囲(組織)を主導していく強いリーダーシップを持った人材が必要です。リーダーシップ育成プランを通して、次世代を担うリーダーを育成します。

■人材育成体系

青字 今後実施を予定しているもの

イノベーション戦略	集合教育(職能・階層別) 新任副参事研修	提案制度 社内委員会 委員公募制度	リーダー養成研修
モチベーション戦略	必須・推奨資格設定 資格取得奨励金制度	通信教育・eラーニング 自己申告制度	イノベーション会議 リーダーシップ・トライアル
コミュニケーション戦略	OJT 新入社員導入研修	ジョブローテーション	コーチング研修
人材育成マトリクス	プロ意識育成 プラン	チャレンジ精神育成 プラン	リーダーシップ育成 プラン

コミュニケーション戦略のOJTを社員教育のベースとして、リーダーの育成を目標としていることを、右肩上がりのマトリクスで示しています。



新任副参事研修風景。社長自らが全国を回り、第一線で働く社員とコミュニケーションを深め、経営への参画意識を高めるとともに、前線の声を経営に活かしています

成果・発揮能力の適正評価

●人事考課

会社の経営計画に連動した社員一人ひとりの目標を設定することにより、自己の役割・使命を明確にし、それを遂行していく過程または結果に表れた発揮能力を評価します。通常、人事考課は昇給・昇格や賞与といった処遇の決定に用いますが、当社はそれだけに限定せず、面接を通して今後「得意分野」をどう伸ばしていくか、反対に「不得意分野」をどう克服していくかといった「人材育成」「能力開発」の面にも活用しています。

●表彰制度

社員のモチベーションの維持と一層の高揚を図るため、業績向上に著しく貢献した社員に対するインセンティブとして、社長表彰・所管長表彰・所管長特別褒章を実施しています。

人と自然が調和したゆたかな環境の創造

鴻池組は、事業活動において環境負荷の低減、環境配慮設計の推進、環境保全および環境創出技術を通じて、人と自然の調和したゆたかな環境の創造を目指します。

環境方針

鴻池組は、建設活動を通じて、地域社会との相互信頼を深め、環境と調和を図りながら、良き企業市民として果たすべき責任を全うするとともに、健全な環境を次代に引き継いでいくため環境経営を推進する。

●法規制などの遵守

環境に関する法令、ならびに地域社会との協定などの同意するその他の要求事項を遵守する。

●環境への取り組み

環境マネジメントシステムを活用して環境負荷の低減に努め、継続的改善を図る。

- 建設作業に伴う地域住民への環境配慮
- 建設廃棄物の適正処理と減量化
- 建設作業に伴う大気汚染および地球温暖化の抑制
- 省エネ・省資源・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進
- 生態系保全の推進
- 環境保全技術・手法の開発および提案

●社会貢献

環境保全および環境創出技術を通じて、人と自然の調和したゆたかな環境の創造へ貢献する。

●情報公開

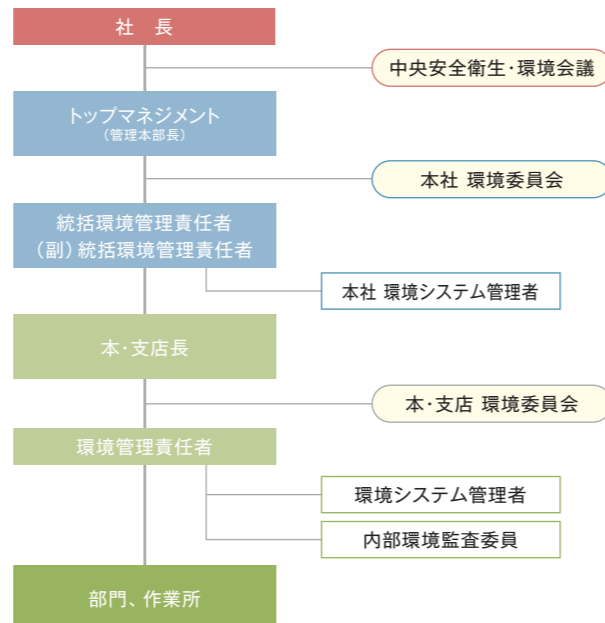
環境保全の取り組みと実績を、ホームページおよびCSR報告書を通じて広く一般に開示する。

2008年12月15日

環境管理体制

社長を議長とする中央安全衛生・環境会議で管理方針、方策などに関する重要事項を決定します。また、管理本部長をトップマネジメントとして環境マネジメントシステムを運用することで、数値目標を設けた環境保全活動を推進するとともに継続的な改善に取り組んでいます。

■環境管理体制



外部審査登録機関による審査

環境マネジメントシステムがISO14001規格に適合していることを検証するため、外部審査登録機関(株)マネジメントシステム評価センターの審査を年1回受審しています。2008年は11月4日～6日に受審し、観察事項*2件、充実点3件がありました。

*観察事項 ISO規格に抵触しないが、時間経過とともに環境に影響を与えるようであれば検討を要する事項



外部審査

内部環境監査・環境パトロール

環境法令などの遵守徹底を図るため、内部監査員による年1回の内部監査と定例の環境パトロールを実施しています。また5月～6月にトップマネジメントによる本・支店監査を実施しています。毎年7月には、社長による現場パトロールも実施しています。(2008年度内部監査:31部門102工事事務所)



社長パトロール

環境管理活動

「地球温暖化防止対策」、「産業廃棄物対策とリサイクルの推進」、「省エネルギーの促進」、「環境配慮設計の推進」について数値目標を掲げ、達成に向けた取り組みを推進しています。

2008年度環境目標と実績(2008年1月1日～2008年12月31日)

2008年度は、施工段階における二酸化炭素の排出抑制の目標が未達成となりましたが、その他の目標については、優良な数値で目標を達成することができました。

二酸化炭素の排出抑制は、大型解体工事、道路新設などの

重機が大量に稼働する工事が多かったことが原因です。2007年度に発生した環境災害の反省に立ち環境パトロール、教育などの実施により2008年度は、環境災害件数0件を達成しました。

目的	2008年度目標	実績	評価	実施担当部門		
法令遵守	環境災害の防止	環境災害件数 0件	0件	○	全部門	
地球温暖化防止対策	社有車の燃料使用量の削減	燃料使用量の削減(前年目標比) 1%削減	21.3%減	○	管理部門	
	公共交通機関の利用の奨励	タクシー使用料金の削減(前年目標比) 1%削減	16.6%減	○	管理部門	
	施工段階における二酸化炭素の排出抑制	二酸化炭素の排出量の抑制(前年調査量比) 3%削減	0.7%増	×	施工部門	
廃棄物対策とリサイクルの推進	機材センターにおける燃料使用量の削減	燃料使用量の削減(前年比) 2%削減	16.0%減	○	機材センター部門	
	廃棄物の最終処分量の削減	最終処分量(がれき類、汚泥、特管を除く) 27%以内	22.0%	○	施工部門	
省エネルギーの促進	電気使用量の削減	電気使用量の削減の取り組み	数量調査	—	—	管理部門
		電力使用量の削減(前年目標比)	1%削減	10.6%減	○	施工部門
		電力使用量の削減(前年比)	1%削減	20.3%減	○	機材センター部門
環境配慮設計の推進	環境配慮設計の推進	提案件数	5件以上	6件	○	土木技術部門
		省エネルギー配慮設計	20点以上	21.8点	○	建築設計部門
		リサイクル材採用配慮設計	10点以上	12.0点	○	建築設計部門
		環境関連工事の受注協力	設計提案ポイント	200ポイント	292ポイント	○

【評価】○:目標を達成 △:目標は未達成だが前年度より成果がある ×:前年度より悪化

2009年度環境目標

2009年度は、管理部門、施工部門においては管理ポイント環境関連工事受注の目標を昨年度より追加し、積極的に環境を絞り込み、より実効性をあげる目標の一部改定しました。また、

環境関連工事受注の目標を昨年度より追加し、積極的に環境負荷低減のために提案するように改定しました。

目的	2009年度目標	実績	実施担当部門	
法令遵守	環境災害の防止	環境災害件数 0件	全部門	
地球温暖化防止対策	社有車の燃料使用量の削減	燃料使用量の削減 前年度使用量の維持	管理部門	
	用紙などを含む事務用品費の削減	事務用品費の削減(年度予算費) 3%削減	管理部門	
	施工段階における二酸化炭素の排出抑制	建設発生土(掘削土)の場内利用	利用率85%以上 土木施工部門 利用率75%以上 建築施工部門	
	機材センターにおける燃料使用量の削減	燃料使用量の削減 前年度使用量の維持	機材センター部門	
廃棄物対策とリサイクルの推進	廃棄物の最終処分量の削減	最終処分量(がれき類、汚泥、特管を除く、前年実績比) 2%削減	施工部門	
省エネルギーの促進	電気使用量の削減	電気使用量の削減	前年度使用量の維持	管理部門
		5%以上の工期短縮	対象工事の半数以上	施工部門
		電気使用量の削減	前年度使用量の維持	機材センター部門
環境配慮設計の推進	環境配慮設計の推進	省エネルギー配慮設計(前年実績比)	2%アップ	建築設計部門
		リサイクル材採用配慮設計(前年実績比)	2%アップ	建築設計部門
	環境関連工事の受注協力	総合評価入札案件技術評最高得点の80%以上	獲得率60%	土木技術部門
		設計提案ポイント	35ポイント/百億円	土木技術部門

建設廃棄物減量化への取り組み

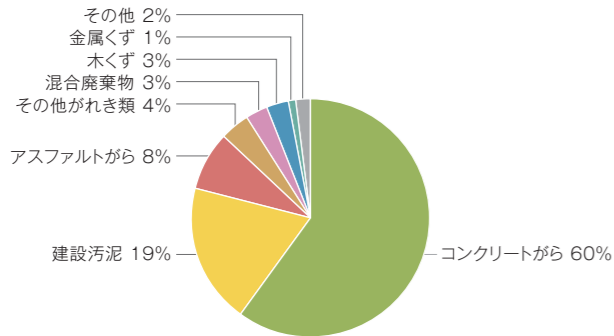
工事現場から発生する産業廃棄物の発生抑制、再使用、再利用の取り組みを推進し、優良処理業者の選定、電子マニフェストの導入などにより適正処理の強化をしています。

建設廃棄物排出状況

2007年度の発生総量は、572千tありました。品目別発生割合は、コンクリートが60%、建設汚泥19%、アスファルトが8%と、この3種類で全体の87%を占めています。

最終処分量は、38千t(最終処分率6.6%)となりました。発生量の87%を占めている3種類の最終処分率は、4.5%となりました。分別排出をさらに実施し、最終処分率の低減をさらに進めます。

建設廃棄物発生分布



電子マニフェストの推進

電子マニフェストを2006年より導入しています。電子マニフェストは、紙マニフェストに比べて偽造が難しく、記載事項に漏れなどがある場合は発行できません。記載漏れの防止、回収漏れ防止、処理状況の確認、発行枚数の行政報告の代行などの合理化ができ、法令遵守や業務の効率化面でメリットがありますので、導入工事事務所数の拡大を推進しています。

また、社内の廃棄物集計システムに情報を取りこみ、多量排出事業者報告の基礎データとして使用しています。

※2008年度の導入現場数 187現場、昨年度より36.5%増加



Webによる操作

建設現場での取り組み事例

福岡208号皿垣連続高架橋上部工事(福岡県柳川市)では、18径間連続アーチ橋の施工にあたり、従来は、H形鋼をアーチ形状に曲げ加工して支保工として使用していました。アーチ形状が多岐にわたること、転用・移動が容易であることから、GRV連続ウェールシステム(Peri社 ドイツ)によるアーチリブ型支保工による施工を実施しました。

これにより、型枠材などの運搬軽減、支保工組み立て時の安全性の向上を図ることができ、工期の短縮にもなりました。



アーチリブ部材



GRV 連続ウェールシステム完成



システム移動時



アーチ部完成

環境関連表彰の受賞

工事事務所で取り組んでいる、廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進、CO₂発生抑制、環境保全と創造、振動・騒音対策、交通安全対策に対して、以下の団体から表彰を受けました。



中之島新線イルミネーション用風力発電機

表彰機関	賞名	工事名称
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	(仮称)ひばりヶ丘駅前南口地区地区計画建築計画
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	第二京阪道路宮山工事
豊かな環境づくり大阪府民会議	おおさか環境賞	中之島新線第1工区工事
五団体合同公害対策本部交通対策部会	部会長賞	北関東自動車道足利西工事
五団体合同公害対策本部公害対策部会	部会長賞	第二京阪道路宮山工事

地球温暖化防止対策/法令遵守

地球温暖化防止のため設計、施工、オフィス活動のそれぞれで、二酸化炭素排出抑制の取り組みを強化しています。また多岐にわたる環境関連法令の遵守を徹底し、適正に対処するため、従業員教育にも取り組んでいます。

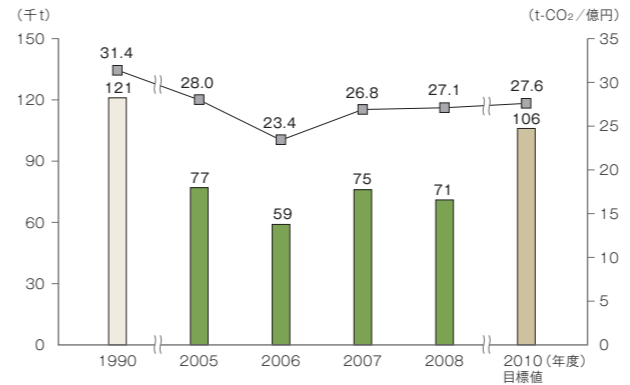
施工段階におけるCO₂排出量の推移

2008年度の施工段階におけるCO₂排出量原単位は、27.1t-CO₂/億円となり、前年比0.7%増となりました。これは大型解体工事などの重機稼働工事が多かったことが原因です。

1990年度からは、原単位13.7%減、総排出量41.0%減となっています。2009年度は、建設発生土の運搬を減らすなどして排出量削減に努めます。

施工段階におけるCO₂排出量(総量、原単位)

■総排出量(千t) ■排出量原単位(t-CO₂/億円) 2010年度目標値…1990年度比12%削減



※「CSR報告書2008」において、2007年度排出原単位を昨年度22.8t-CO₂/億円と報告しましたが、再計算を行った結果26.8t-CO₂/億円でしたので、修正しております。



地球温暖化防止の啓発看板

社内教育の実施



環境関連法令の理解、実運用に必要な知識習得のため、全従業員に対して社内教育を定期的に行っています。

社員教育

有害物質・化学物質対策

廃石綿、ダイオキシン類、汚染土壌などの適正対応を行うため、社内取扱指針の見直しを行い、イントラネット、社内教育を通じて、全従業員に周知・徹底しています。

CO₂排出量の削減活動

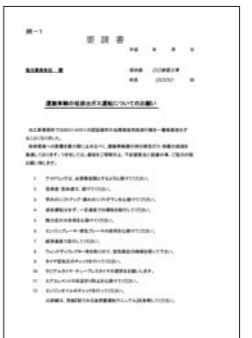
建設工事で排出されるCO₂のうち、最も高い比率を占めるのが、建設重機、運搬車両の軽油消費によるものです。工事事務所では、アイドリングストップ、省燃費運転を励行し、資材の簡易梱包、運搬車両の削減、建設重機の適正整備、不正軽油の使用禁止の徹底などを指導することにより、CO₂の発生抑制に努めています。



CO₂排出削減研修会



低排出ガス運転の協力要請書



低排出ガス運転の協力要請書

PCB廃棄物の保管管理

高圧コンデンサーなどのPCB廃棄物は、大阪と東京に集約して125台保管しています。保管は法令などにに基づき、外部流出がないように専用容器で実施しています。今後は日本環境安全事業(株)(JESCO)の計画に基づいて順次適正に処理を実施していきます。



PCB保管状況

生態系保全への取り組み

鴻池組は「生態系保全の推進」に取り組むことを環境方針の中に定めており、各現場でさまざまな活動を行っています。ここでは、第二東名高速道路 岩中工事における地域の生き物に配慮した工事の進め方をご紹介します。

ホタルの名所を守るため、付け替え水路を自然に近い形に

第二東名高速道路 岩中工事事務所 原田副所長のコメント

工事を進めるにあたり、敷地内を流れていた川を、付け替え水路を設けて270mほど迂回させる必要が生じました。この辺りはホタルの名所であり、私たち現場配属員も乗り込んだ時に、実際にホタルが舞う様子を目にしていたので、何とか彼らの住処を奪わずに工事を進めたいと考えました。



第二東名高速道路
岩中工事事務所 副所長
原田 建志



270mにもおよぶ付け替え水路



すべて手作業で行った生き物の引越し

当初付け替え水路はコンクリートの既製品で設計されていましたが、水質浄化作用および多くの生き物が住みやすい環境を作り出す目的で、ふとん籠工(石詰工)に変更しました。

また、できるだけ生態系を変えないように元の川底の土をさらって付け替え水路の川底に敷き、数日間かけてくまなく生き物を移しかえました。

その他、私たちの現場では敷地内の土砂が流出することによって近隣の川を汚したりすることのないよう、さまざまな工夫を凝らしています。

工事敷地の土質はほとんどが花崗岩、もしくはこれが風化した真砂土となっており、この真砂土は雨による侵食が激しいことで知られています。そこで斜面となっている部分は、ヨモギやスキなどの周囲の生態系によく馴染む植物を中心とした植生シートで被い、真砂土の流出を防いでいます。



ホタルの幼虫とカワセミ

それでも雨と一緒に流れ出した真砂土は、敷地内に7カ所も設けられた3層式の特設沈砂池が受け止め、周辺の川を汚さない仕組みになっています。

昨年の初夏には付け替え水路の周囲をホタルが飛翔する様子が見られ、また今春にはその水路のすぐ横にカワセミが巣を

作ろうとしています。私たちが提供した環境が本当の自然に近かったのだと、ほっと胸をなでおろしています。



植生シート



3層式の沈砂池



環境へのさまざまな取り組み

これまでにご紹介した以外にも、情報システムや保有技術を駆使して、環境へのさまざまな取り組みを行っています。

環境災害データベースの構築

社会の環境に対する意識の向上などに伴い、建設業は環境災害防止活動の強化、環境情報の開示、総合評価入札への対応など、法令で規制されている以上に環境への取り組みが求められています。

従来は法規制などを遵守する「法令違反によるリスク」への管理で対応できてきましたが、現在は、社会からの制裁という「社会的リスク」に対しても管理する必要があります。また、環境リスクが明らかになった場合のリスクの低減・除去のみならず、発注者、近隣住民、マスコミ、行政などへの対応も、平時からリスクマネジメント*を実施しておくことが重要です。

社内においては、リスク情報の伝達手段、拡散防止対策などの対応を共有する必要があります。これまで紙ベースで報告、

保管していた情報を、環境リスクマネジメントの実施や、ISO 14001におけるコミュニケーションの情報共有ツールとするため、環境災害データベースの構築に取り組んでいます。
※リスクマネジメント リスク(危害の発生する確率と危害の組み合わせ)に関して組織を指導し、それを管理する調整された活動を指しています。



環境災害データベース
(入力画面のイメージであり、実際に作成されたものと異なる場合があります)

(株)ジオスチームを設立、時間当たり2tの処理開始

2007年8月、日本初となるPCB汚染土壌浄化事業を行う(株)テルム 土壌浄化センターが操業を開始しました。当社は本事業に技術支援で参画し、順調に汚染土壌の処理を進めてきましたが、多くの顧客から処理依頼があり、時間当たり0.3tの処理能力では対応が難しくなってきました。これを受け、事業に参画している(株)東芝、(株)テルム、(株)鴻池組の3社では、時間当たり2tの処理能力を持つ大規模な設備を増設することを計画し、2008年3月より新しい設備の建設工事に着手しました。



PCB汚染土壌処理施設

2008年6月には3社の共同出資により、汚染土壌浄化処理の専門会社として北九州市の現地に(株)ジオスチームを設立。(株)テルムの事業を引き継ぎ、新しい大規模設備でのより安全、確実な浄化処理技術の確立を目指すことにしました。

2008年10月には設備が完成し、引き続き無害化処理性能、周辺環境への影響などを検証しました。この実証実験により設備の安全性が確認できたことから、2009年1月16日北九州市と「汚染土壌処理事業に係る環境保全に関する協定書」を締結。2009年2月に、時間当たり2tが処理できる大規模設備の操業を開始しました。

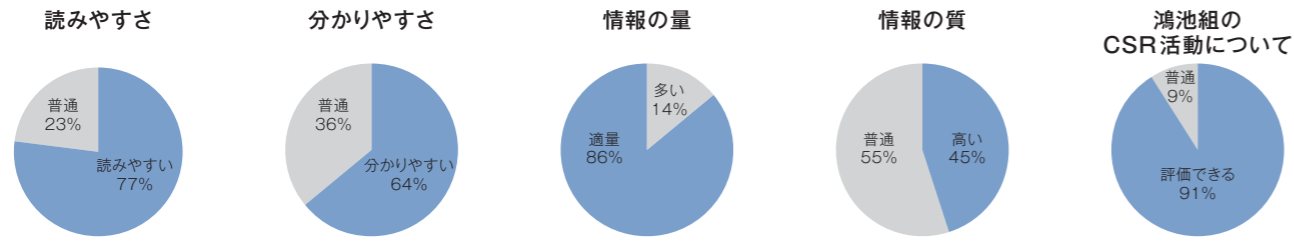
工事概要

名称: 株式会社ジオスチーム
所在地: 福岡県北九州市若松区響町1-62-1
敷地面積: 約8,000m²
処理対象物: PCB、ダイオキシン類、残留農薬による汚染土壌
処理能力: 48t/日(年間約11,000t)

皆さまの声にお応えします

「鴻池組 CSR 報告書 2008 アンケート」により多くの貴重なご意見が寄せられました。ご協力をいただいた皆さまに厚くお礼申し上げます。アンケートの集計結果、ならびにお寄せいただいたご意見に基づいて「CSR 報告書 2009」に改善を加えた点などをご紹介いたします。

報告書全体を通していかがでしたか



鴻池組のCSR活動、CSR報告書についてお寄せいただいたご意見

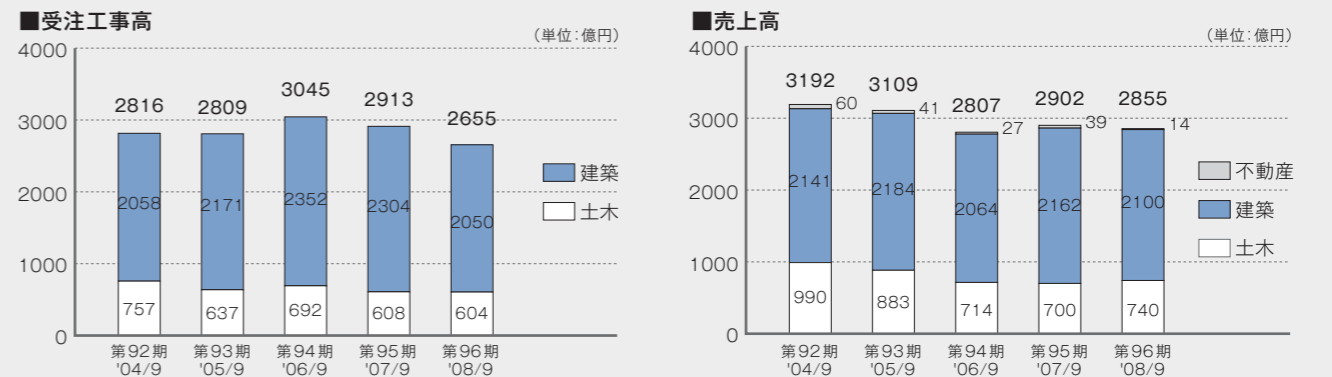
主なご意見・ご要望とその対応

ご意見	インターネットに掲載してあるのに全職員へ報告書を配付するとは、何を考えているかさっぱり分からない。何のための媒体なのかをもっと認識すべきである。環境、温暖化をテーマに掲げている報告書とは逆行しているようである。今後検討を願う。
鴻池組から	多くの企業がWeb版に一本化せず、冊子版を作成しているのは、Webに掲載されているものについても、実際に読まれる際はプリントアウトされる例が多く、それであれば、きちんと環境配慮用紙を用いて余剰の出ないように印刷、配付すべきとの考えによるものであり、当社もこれに倣っています。また、会社としては大いに反省すべきことですが、CSR推進を内外に宣言して2年以上が経過した現在においても、従業員へのCSRの浸透度は決して高いとはい切れません。CSR報告書は対外的な報告書としての側面と同時に、従業員に対する教材の面も併せ持っていますので、当面はなるべく多くの従業員とご家族の目に触れるよう配付を行う方針です。
ご意見	大変興味深く読ませていただきました。CSRの意味がよく分かりませんので、日本語訳をどこかに載せていただければと思います。ステークホルダー、コーポレートガバナンスも同様です。
鴻池組から	“CSR”と“コーポレートガバナンス”については用語解説を掲載しました。“ステークホルダー”の用語は今号より「鴻池組に関わるすべての人びと」という表現に置き換え、使用していません。その他CSRについて表現する際の特有な用語に関しては、なるべく解説を加えるか使用しないようにしました。
ご意見	現在の世相に合った時代感覚でよくまとめていると思います。「建設業者はこんな努力もしているんだ!」と一般の方々にもPRができればと思います。特に建設業者は当世の悪者扱いされている気がしますので、息長く続ける必要があると思います。
鴻池組から	建設会社は社会との接点が多岐にわたる業種でありながら、一方で社会に対してあまり積極的に語りかけてきませんでした。鴻池組ではこうした姿勢を改め、社会に開かれた「顔の見える経営」を目指しています。CSR報告書についても、鴻池組のあり方について広く社会に問いかけ、ご意見をお寄せいただく窓口と位置づけ、今後も発行を続ける予定です。
ご意見	全体的なバランスはよく構成されていると思いますが、図などで記載事項がまったく判読できない箇所もあるので、今後はよく選定し使用された方がよいと思います。
鴻池組から	2009版では、図などをなるべく大きく表示するよう心がけました。
ご意見	貴社がご自身で問題がある、と考える部分をしっかりと採り上げていらっしゃる点が印象的でした。ただ自分の勉強不足もあり、分からない専門用語が多かったようにも感じました。
鴻池組から	社会に開かれた「顔の見える経営」を目指し、自社の問題点についてもきちんと誌面に採り上げていくつもりです。ただ、外部からのご指摘がないと気づきにくい問題点も多々ありますので、皆さまの声をお寄せいただけますと幸いです。専門用語については上述のとおりです。
ご意見	全体的に読みやすかった。項目ごとに色分けされているので、自分が何のページを読んでいるのかが分かりやすい。ただ「鴻池組のCSR」のページの表が分かりづらい。表と文章の関連性が最初分からなかった。
鴻池組から	「鴻池組のCSR」のページは今回大幅にリニューアルを図りました。お読みいただいて、なお分かりにくいようでしたら、またご意見をお寄せいただけますと幸いです。

事業概要

創 業：明治4(1871)年
 設 立：大正7(1918)年6月
 資 本 金：200億円
 事 業 項 目：1. 建設工事の企画、測量、設計、監理、請負及びコンサルティングに関する事業
 2. 不動産の売買貸借及びその仲介並びに所有管理に関する事業
 3. 骨材及び砂利の採取販売に関する事業
 4. 建設用資材の製造及び販売に関する事業
 5. 土地及びその定着物の信託に係る信託受益権の販売、代理、媒介、並びに土地及びその定着物の借地権及び地上権の信託に係る信託受益権の販売、媒介
 6. 不動産の鑑定評価に関する事業
 7. 前各号に関連する一切の事業
 許 可：特定建設業許可
 許 可 番 号 国土交通大臣許可(特-19)第2399号
 許 可 年 月 日 平成19年12月7日
 建 設 業 の 種 類 土木事業 建築事業 大工事業 とび・土工事業 石工事業 屋根工事業 電気工事業 管工事業 タイル・れんが・ブロック工事業 鋼構造物工事業 舗装工事業 しゅんせつ工事業 塗装工事業 防水工事業 内装仕上工事業 機械器具設置工事業 造園工事業 水道施設工事業 清掃施設工事業

受注・売上実績



本社ならびに本支店所在地

事業所名	郵便番号	所在地	電話番号
本社・大阪本店	530-8517	大阪府大阪市北区梅田3-4-5(毎日インテシオ)	06-6343-3500
東京本店	136-8880	東京都江東区南砂2-7-5(鴻池ビル)	03-5617-7500
北海道支店	060-0061	北海道札幌市中央区南一条西14-1(WPSビル)	011-271-4141
東北支店	980-0811	宮城県仙台市青葉区一番町2-3-20(第3日本オフィスビル10F)	022-266-1275
横浜支店	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町74-1(大和地所ビル)	045-201-2831
名古屋支店	460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-19-1(名古屋鴻池ビル)	052-202-4500
京都支店	604-8151	京都府京都市中京区蛸薬師通烏丸西入ル橋弁慶町227(第12長谷ビル)	075-211-5116
神戸支店	650-0024	兵庫県神戸市中央区海岸通4(新明海ビル)	078-331-6857
広島支店	730-8533	広島県広島市中区八丁堀2-31(広島鴻池ビル)	082-228-1161
山陰支店	690-0887	島根県松江市殿町516(山陰鴻池ビル)	0852-22-1551
九州支店	810-0041	福岡県福岡市中央区大名1-14-45(Q'iz TENJINビル)	092-721-5025
南九州支店	892-0825	鹿児島県鹿児島市大黒町2-11(南星いづろビル)	099-225-0321
海外事業部	136-8880	東京都江東区南砂2-7-5(鴻池ビル)	03-5617-7860
技術研究所	305-0003	茨城県つくば市桜1-20-1	029-857-2000



表紙メッセージ

このイラストは、鴻池組が事業を通じてかたちづくっていく“未来”を表しています。

地球・緑・生き物・人などを集約して描くことで、「地球環境」「自然との共生」「人と人とのつながり」といった鴻池組が大切にしているものを分かりやすく表現しています。

ここにはさまざまな構造物が描かれていますが、これは単に「もの」を創るのではなく、地域とのつながりを大切にしながら、「人が集うコミュニケーションの場」を創っていくという鴻池組の強い想いが込められています。



みんなで止めよう温暖化

「鴻池組」チーム・マイナス6%



鴻池組
KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD.

〒530-8517
大阪府大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ
TEL.06-6343-3500
<http://www.konoike.co.jp/>



本レポートの環境配慮について
用紙は、適切に管理された森林から出荷された材を含む森林認証紙を使用し、インクは、VOC(揮発性有機化合物)の発生を低減する大豆油インクを使用、有害廃液を排出しない水なし印刷方式を採用しています。